



- ぼろり家族⑩／落合由利子 2
- おだんご先生の親子でつくろう！
- 季節の和菓子⑥／芝崎本実 3
- 絵本画家いわさきちひろを作った人／松本猛 4
- 「怪談オウマガドキ学園」シリーズ、全30巻完結！／米屋陽一 6
- 新刊紹介／加藤純子、栗沢まり 7

イラスト／田島征彦

台風と子ども文庫の底力

長野ヒデ子

.....

今年は豪雨や大型台風、北海道の地震と災害の多い年で辛いことばかりでした。

その台風にも私も巻き込まれました。昨年の福岡の朝倉地区の豪雨からちょうど1年という7月6日。やっと被害から立ち直った保育園に、私が絵を描いた図書館バスに乗って、本を届けることになりましたが、現地に着くとすごい豪雨！即、中止。この台風は岡山にも実にひどい災害をもたらしたのです。被災地の皆さま心よりお見舞い申し上げます。

42年以上文庫を開いてた岩崎京子さんは今年、文庫を閉じられたが、その文庫の本が岡山の被災地区に届けられることになったと伺い、ほっとした！ 私は50年前石井桃子さんの文庫に憧れ、転勤先の九州で文庫のおばさんになり、岩崎先生とも文庫時代に会った。『子ども文庫の100年』（高橋樹一郎著、みすず書房）は今年出たお薦め本！

7月の末には北九州市立文学館で開催されていた「まど・みちおのうちゅう」展で、まどさんと共作の紙芝居『おひさま にこにこ』の制作エピソードを話してほしいと招かれた。ところがその日、関東に上陸した台風が暴走し、Uターンして北九州にやってきたのだ！ 交通手段がなくなり、来場者が帰れなくなるとは大変だからと、急遽30分で講演をうち切り閉館にすることになった。急に短い30分の講演となり、戸惑った私は、まどさんの詩「おかあさん」を朗読した！ 「あめ ふれ じゃんじゃか」で終わるこの詩は、台風で停電し、ろうそく1本を家族で囲み、外はビュービューだけど、「大好きなおかあさんがいる！ 台風なんか、へっちゃら」と思った幼いあの日が、そのまま詩になっている。台風の中で、まどさんを語るにはぴったりの詩でした！

この前日、偶然にも『紙芝居ネットワーク通信』で長野さんの加古さんの追悼文読みました。よければ」と、絶版お宝の、かこさとし紙芝居『たいふうがやってくる』を頂いた！ 今日にぴったりと、詩のあとに演じた。加古さんに初めて出会ったのも私の文庫時代だった。子どもたちに「一番会いたい作家は？」と尋ねたら「かこさん！」そこでお手紙を差し上げたらなんと来てくださったのだ！ 「かこさんがやってくる」は台風以上だった！

もちろん最後に『おひさま にこにこ』も演じた。この制作中にイラク戦争があり、まどさんは「世界中の子どもたちに幸せな朝が来るように」とおっしゃられた。私は祈りながら創った。今回は台風の中で祈った。

ああ、偶然が重なり多くの人に生かされている事を、身を持って感じた年であった！ (ながの ひでこ／絵本作家)



2018.11.5
彩の森公園(埼玉)にて

おちあい ゆりこ／写真と文章を手がけた著書に『働くこと育てること』(草土文化)『絹ばあちゃんと90年の旅 幻の旧満州に生きて』(講談社)、共著に『若者から若者への手紙』(1945→2015) (ころから)、写真を担当した本に『きさがたり ときをためる暮らし』(自然食通信社および文春文庫) 他がある。

ぼろり家族 11

写真家の落合由利子さんが、さまざまな家族の「ぼろり」と垣間見える素顔に出会っていきます。

落合由利子 写真・文

いい香り

ウランバートル出身の二人が出会ったのは、毎年ゴールデンウィークに東京で開催されるハワリンバヤル(モンゴルの春祭り)だった。日本語学校の留学生だったアンハさんが、研修生としてプラスチック工場で働いていたツオギさんに一目惚れをした。「笑顔がいい、優しくて安心できます」

ツオギさんに抱かれずと機嫌のいいアンヒルンちゃんは八か月になる。「日本語にすると香かほです。いい香りかな」と嬉しそうなアンハさんは、最近日本語能力試験のN1にみごと合格した。「将来はモンゴルと日本を結ぶ仕事が見たい、今は勉強の期間です。がんばります」と膨らむ夢を語ってくれた。

おだんご先生の 親子でつくろう！ 季節の和菓子⑤

ゆずもち

芝崎本実

- 材料(12×10cmの容器1つ分)
- ゆずのすりおろした皮 1/4個
- ゆずの絞り果汁 1/4個(4ml)
- 白玉粉 80g
- 水 80g
- グラニュー糖 120g



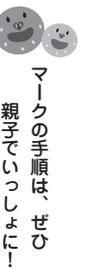
冷たい北風が吹くなか、新年を迎える準備に慌ただしい時期ですね。電子レンジで簡単・時短の和菓子で、ほっと一息いれませんか？



しばさき もとみ／管理栄養士、帝京平成大学教員。「おだんご先生」として、和菓子の魅力を発信。「おだんご先生のおいしい！ 手づくり和菓子」も発売中。

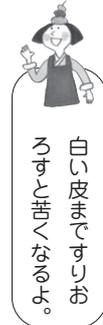
イラスト／二木ちかこ

作り方



マークの手順は、ぜひ親子でいっしょに！

①ゆずの表面をよく洗い、細かいおろし金で表皮だけをすりおろす。



白い皮まですりおろすと苦くなるよ。

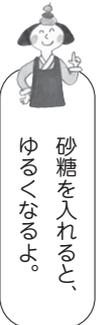
②ゆずの果汁を絞り、①と合わせる。

③耐熱ボウルに白玉粉を入れ、2〜3回に分けて

水を加え、そのつぎゴムべらで混ぜる。



④③にグラニュー糖を加えてゴムべらで混ぜる。



砂糖を入れると、ゆるくなるよ。

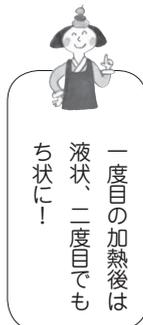
⑤ボウルをラップで覆い、電子レンジ(500W)で2分加熱する。



時間はめやす。機種によって調整してね！

⑥ラップをとり、木べらでよく混ぜる。

⑦⑤、⑥をもう一度くり返す。



一度目の加熱後は液状、二度目でもち状に！

⑧⑦に②を加えて混ぜる。

⑨片栗粉をたっぷりまぶした容器に⑧をならして入れ、上にも片栗粉をまぶす。



⑩常温まで冷まし、包丁で好みの大きさに切る。

★次回は、花見だんごです。

豆知識

冬至には、体を温め病気になるようゆず湯に入る習慣があります。邪気を払うと言われるゆずの強い香りを使った和菓子全般を「ゆべし(柚餅子)」といい、この時期には、ゆずまんじゅうや、蒸したもちにゆずの皮を入れた和菓子が出回ります。今回のゆずもちは加熱の工程を電子レンジで代用した時短レシピです。

稲庭桂子との出会い

いわさきちひろが本格的に子どもの本の仕事に携わるようになったのは、戦争が終わってまもない、一九四七年ごろのことです。戦前・戦中と続いた価値観が崩れた混乱期の中で、ちひろはなぜ戦争が起きたのかを考え、自立して新しい生き方を模索します。

絵の勉強をやり直そうと、疎開先の信州松本から単身上京、小さな新聞社に記者の職を得て何とか生活し始めます。絵の勉強をしながら、必死でカットや挿し絵の仕事もしていたころ一人の女性が現れます。ちひろはその時のことを後にこう書いています。

「大へんものごしのやさしい女の方が、つとめ先にあらわれて、私にアンデルセンの「おかあさんのはなし」の紙芝居の絵をかいてくれといわれました。三千円も画料を払うというのです。あのころは三千円もあれば女ひとりなら一カ月の生活は十分できたのです」

この、仕事の依頼をきっかけに、ちひろは新聞記者を辞め、絵筆一本で生きる決意を固めます。物腰のやさしい依頼者は日本民主主義文化連盟（文連）の稲庭桂子という女性でした。この稲庭桂子、後に童心社を立ち上げ、ちひろの重要な仕事のパートナーであるとともに、終生

絵本画家

いわさき

ちひろを

作った人

松本猛

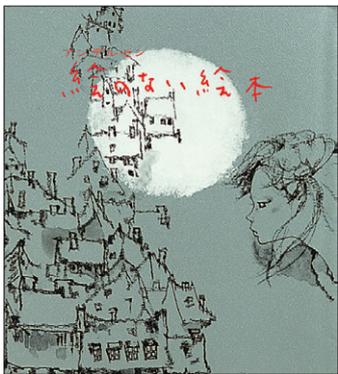
まつもと たけし／美術・絵本評論家、ちひろ美術館常任顧問。一九五一年、松本善明、いわさきちひろの長男として東京に生まれる。一九七七年にちひろ美術館・東京、九七年に安曇野ちひろ美術館を設立。同館館長、長野県信濃美術館・東山魁夷館館長、絵本学会会長を歴任。



『おかあさんのはなし』再版1965年（初版1950年）
稲庭桂子／脚本



『あいうえおのほん』改版1975年
浜田広介／文（初版1960年）



『絵のない絵本』1966年
アンデルセン／作 山室静／訳



『私が小さいときに』1967年
稲庭桂子／脚本

の友人となる人でした。

意気投合する二人

稲庭桂子は岩手県の出身で、ちひろより二歳年上でした。朝日新聞の記者だった父親は、宮沢賢治を世に出すうえで重要な役割を果たした弟の宮沢清六とも知り合っていたそうです。その影響が、童心社の昔の社屋には版で刷られた「雨二モマケズ」の詩が掛けられていたということです。

稲庭は青山女学院を卒業して、戦前は劇作家を目指し、紙芝居の脚本を書いていました。戦中、戦後に両親や妹を亡くし、二度と戦争のない世の中になりたいと戦後すぐ疎開先の岩手から上京し、日本の民主化運動に身を投じます。

ちひろは戦争中に宮沢賢治の文学に出会い、絶大な影響を受けていました。ちひろと稲庭は賢治という接点もあり、同じ日に東京空襲で被災し、戦後、平和を願って民主化運動に参加したという共通点もあり意気投合します。

童心社とちひろ

紙芝居『お母さんの話』（一九六五年の再版時に『おかあさんのはなし』と改題）は稲庭がアンデルセンの童話を紙芝居用に脚色したものでした。この作品が

童心社の前身となる「教育紙芝居研究会」から一九五〇年に出版され、文部大臣賞を受賞します。

稲庭は一九五七年に夫の村松、片腕となる編集者の渡辺泰子わたなべやすこなどわずか四人で童心社を設立し、編集長となり、ちひろとともに紙芝居や絵本を次々と出版します。

童心社が子どもの本の出版社としての地歩を固めたのは、一九六〇年に出版された『あいうえおのほん』の大成功があったからです。この絵本の文は浜田広介、絵がちひろでした。その後も、童心社はちひろの絵を使った本を何冊もヒットさせます。

もうひとりの編集者

ちひろと稲庭は親しい友人だったからこそ、ケンカもよくしたようです。編集者と画家という関係もあり、仕事をする上では急いで関係修復もしなければならぬ場合があり、その役割を担ったのが編集者の渡辺泰子でした。

渡辺はちひろより二歳年下でしたが、絵心もあり、万葉集などの好みも重なり、社会に対する考え方も一致していて、ちひろがもっとも信頼する編集者となりました。私がもの心つくようになってから、ちひろのアトリエに一番長くいた編集者

は渡辺泰子だったと思います。

締め切りが迫っている時などは、朝、会社に行かずにちひろのアトリエに出勤し、そこで仕事をしながら、ちひろの相手をし、夜中までいることもよくありました。

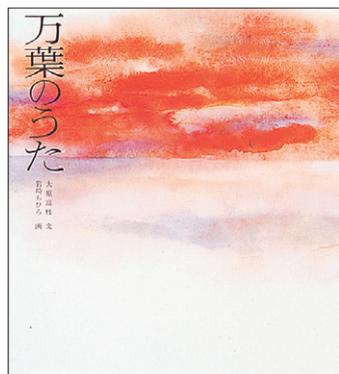
『あいうえおのほん』のときもそうでしたが、「若い人の絵本」シリーズはちひろと稲庭と渡辺の合作といってもいいものでした。

「絵のない絵本」

一九六三年、いわさきちひろと稲庭桂子はソビエト（現・ロシア）で開催された世界婦人会議に日本代表団のメンバーとして参加します。この旅のなかで、ちひろはアンデルセンの『絵のない絵本』を描きたいと稲庭に語ります。

帰国後、稲庭は渡辺とともに企画を考えるのですが、幼児図書専門の童心社にとって、人生の苦悩や社会の矛盾を描いた短編集『絵のない絵本』の出版は極めて難しいものでした。

三年後の六六年、ちひろは稲庭と渡辺にデンマークまでアンデルセンの取材に行くこと告げてヨーロッパ旅行に出かけます。童心社の看板画家でもあるちひろの要望をかなえたいと、渡辺は思索を重ねついに女子学生が手に取りたくなるよう



『万葉のうた』1970年
大原富枝／文



『たけくらべ』1971年
樋口一葉／作



『花の童話集』1969年
宮沢賢治／作



『愛かぎりなく』1968年
ネクラースフ／原作 谷耕平／訳



『わたくし小さいときに』
長田新

な若い人向けの絵本企画を考えだします。『絵のない絵本』はヨーロッパスケッチの成果がふんだんに生かされた、鉛筆線の美しい絵が見聞きごとに入る絵本として出版され、ヒット作品となります。

「若い人の絵本」

以後、ちひろは毎年「若い人の絵本」を描くようになり、このシリーズはちひろの新しい画境を切り拓いた代表作となります。

二作目は稲庭の強い希望で、広島で爆した子どもたちの作文や詩を集めた『わたしが小さいときに』。三作目はロシア革命の前に自由主義を掲げて蜂起し捕らえられた青年将校の妻たちの物語『愛かぎりなく』。これはちひろや稲庭や渡辺の若き日の思いが重なった本でした。ちひろの提案から生まれたのが宮沢賢治の『花の童話集』と樋口一葉の『たけくらべ』。ちひろと渡辺が青春時代に夢中になった万葉集から二人が好きなお歌を選んだのが『万葉のうた』でした。

ちひろの仕事を振り返ってみると、稲庭桂子との出会いがなければ、また渡辺泰子という名編集者の存在がなければ、現在知られている絵本画家いわさきちひろはいなかったかもしれません。



妖怪博士うしみつオル

「怪談オウマガドキ学園」
シリーズ、全30巻完結!



河童の一平



人面犬助

お化けの学校へようこそ!

米屋陽一

おもしろくてこわ〜い!



二宮のぎんちゃん



幽麗華



猫又ニャン子



ぬらりひよんぬらりん



マジョリー先生



まじよ子

2018年10月、「怪談オウマガドキ学園」の第26～30巻が刊行され、シリーズが完結。これを記念して、編集委員の米屋陽一さんに、シリーズの魅力伺いました。

「どこかにあるけどどこかわからない この世とあの世のさかいめあたり 昼と夜とがまじりあう オウマガドキは ふしぎの時間……」で始まる「怪談オウマガドキ学園」。2013年7月に刊行がスタートし、2018年10月に全30巻が完結した。5年の歳月を費やした。

本シリーズは日本と外国の民話（昔話・伝説・世間話・現代民話・都市伝説）と怪異な現象・体験談などから、こわい話・ふしぎ話を選びすぎた怪談集で、「HR」「1時間目」「休み時間」と、授業時間なぞらに擬えた構成になっている。

この本の特長を3つあげてみよう。1つ目は学術的に裏付けされた民話をもとにした作品であること。特に外国民話担当の執筆者は、掘り起こした最新資料を自ら翻訳・再話している。2つ目は、各作品の間にあるコラムなどで、民話の入門知識、なぞなぞ、ことわざ、俗信、民間の信仰、

慣用語・慣用句などを紹介したという点にある。3つ目は絵・デザイン担当の村田桃香と挿画担当のかとうくみこ・山崎克己の仕事をあげる。子どもたちに親しみやすい絵やデザインは、本が読みやすくなるように工夫されており、魅力的な両輪として機能している。

執筆陣は、日本民話の会のメンバーを中心に全26名。そのうち、編集委員は以下の5名である。民俗学・口承文芸学の専門家で、妖怪研究者でもある常光徹。ドイツ語圏の民話研究者で、子育て・孫育てのベテランの高津美保子。英語圏の民話研究者の岩倉千春。そして、私、米屋陽一は口承文芸学・民俗学・子どもの文化史・国語教育が専門である。21巻からは、若手の妖怪研究者・大島清昭が加わり、百人力を得た。「HR」「休み時間」「解説」などは、編集委員が知恵を絞り出し、各巻のテーマに即して構成した。

このシリーズのクオリティを高めているのが「検討会」というシステムである。執筆者、編集委員、担当編集者の出席するこの会で、執筆者は自身の原稿を音読し、出席者は配布された原稿に目をやりながらそれを聞く。集団討論が始まり、作品はさらにいいものへと磨かれていく。手抜きはしない。日本民話の会の基本的な姿勢だ。

このシリーズを手にとった子どもたちはいつでもどこでも、ハラハラ・ドキドキ・ピクピク……楽しみながら読書をするだろう。するとふしぎなことに、生きる知恵や教養が自ずと身についてしまう。なぜならこの本には、民話の中にあるそれらのエッセンスが、たくさん散りばめられているからだ。1つでも怪談を覚えたら「百物語（怪談）の会」、妖怪の知識を得たら「妖怪談義」の始まりだよ！

そう願っている。 (よねや よういち/口承文芸学研究者)



怪談オウマガドキ学園 (全30巻)

常光徹/責任編集 村田桃香・かとうくみこ・山崎克己/絵 怪談オウマガドキ学園編集委員会/編 【並製版】本体価格 各680円+税 【図書館版】本体価格 各1200円+税

BOOK

さよなら、
そして、
こんにちは。



『まえばちゃん』
かわしまえつこ／作
いとうみき／絵
本体価格 1000円＋税

加藤純子

生まれたばかりの赤ちゃんには歯がない。歯ぐきがムズムズして歯が生えてくるのは、おおよそ生後6か月ごろ。歯が生えたばかりの赤ちゃんはママのおっぱいをちょっと噛んでみて、歯が何かを噛むものなんだということを知る。

この物語の主人公「ななこ」と、初めて生えた歯である「まえばちゃん」とはそれ以来のおつきあいた。ある日、その「まえばちゃん」がぬけそうになる。みんなからは「グラグラゆらして、ぬいてしまえば？」と言われる。そこまではリアリズムである。ここからがこの物語の真骨頂。「まえばちゃん」は、「ななこ」をずっと見守ってくれていた守り神のような存在だったのだ。それを「まえばちゃん」の話から知る。その寓話性がこの物語の面白いところだ。乳歯からの視点を交えた物語として、たっぷりの絵で描写される2人の関係も楽しい。リズムがいい。

ある日「まえばちゃん」は、なんの前触れもなく「ななこ」の口からあっけなく離れていく。その下にはこれから一生つきあうであろう永久歯という存在が、まだ小さくはあるが光り輝いている。それはいいかえれば大人に向かっての1歩でもあるのだ。そんな「まえばちゃん」の存在が、小学校低学年の子どもたちに向けて、楽しく、やさしく語られている。子どもにとって生まれて初めての喪失と再生の物語である。(かとう じゅんこ／作家)

《たからばこ》と聞いて、頭の中に浮かんでくるのはなんでしょう？ あ、今、金銀財宝がいっぱい詰まった《宝箱》を思い浮かべませんでしたか？ あのね、二年二組の《たからばこ》は違うんです。なんと、たからくんの落とし物を見つけたら入れておく《たからくんのほこ》なんです。自分専用の落とし物入れができるほど毎日たくさんの落とし物をしているのに、たからくんは気にするふうもありません。授業中もしょっちゅう「かして」と言ってくるので、となりの席のみなちゃんは、とっても迷惑しています。

落とし物をするのは、物を大事にしないからだ。このまま貸していたら、たからくんのためによくない。今度「かして」って言われたら……。お母さんや友達との会話を通して、みなは、いろいろ考えます。

でも、そんなある日、事件が起きて……。

「先生は、わたしと たからくんを ぎゅうっと だきしめてくれた。」……たからくんの痛みと健気さ、みな気づきと後悔、そして、飾りのないふたりの涙が、胸にぐっとせまってきます。泣きじゃくるふたりを抱きしめられる先生が、とっとうらやましくて。も～、先生、ずるいよ～。

佐藤真紀子さんのイラストも物語に深みを出していて、目には見えない大切なたからものが詰まった、「ぎゅうっ」と抱きしめたくなる1冊です。

(くりさわ まり／児童文学作家)



『二年二組のたからばこ』

山本悦子／作
佐藤真紀子／絵
本体価格 1000円＋税

ぎゅうっ！

栗沢まり

BOOK

12月の新刊図書!

童心社のおはなしえほん

ごろべえ もののけのくにへいく

おおともやすお / 作・絵

本体価格 1300円+税



昔ごろべえという強いさむらいがいて「こわい」と思ったことがなかった。「こわがらせてさしあげます」小僧はそう言って……。

単行本図書

ハニーのために できること

楠章子 / 作

松成真理子 / 絵

本体価格 1100円+税

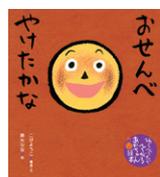


亡くなったおばあちゃんの老犬ハニーを引き取ったふたば。病気になったハニーをふたばは必死に看護するが……。命を見つめる感動作。

読者の声

わらべうたでひろがるあかちゃん絵本
おせんべやけたかな
こがようこ / 構成・文

降矢なな / 絵
本体価格 950円+税



むすかっで泣いている子、身体をさわって歌をうたうと、オヤツという顔をしていますが、だんだん泣きやんで親も子もしばらくホッとできます。お兄ちゃんに本のページをめくってもらって、親子で赤ちゃんのためにいっしょに歌ってましたのしいですよ。お兄ちゃんがおやつを食べる時「おせんべやけたかな」あ、やけるやける」とポテトやクッキーを食べるのもOKです。

(広島県 K・O 六四歳)

14ひきのシリーズ 14ひきのひっこし いわむらかずお / さく

本体価格 1200円+税



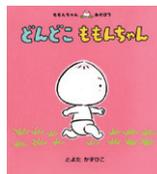
図書館で三歳になった頃から、14ひきのシリーズを借り、何度も何度も読んでくるくらい読んで読んでる息子です。

出だしの「おとうさん おかあさん……」のフレーズはぞらんでいます。ようやく自分の一冊を購入してやることができました。とっくに親近感ももっていたようでしたのに、いつのまにかお兄さん目線です。面白いですね。息子は「おとなになったらやまいもをしょうずにほれるようになりたい」と言っています。雪国に住んでいる故か、『おむいかゆ』を一番読んでいますが、本屋さんで自分で選んだのは『ひっこし』でした!

(北海道 T・I)

ももんちゃん あそぼろ どんどこ ももんちゃん とよたかずひこ / さく・え

本体価格 800円+税



長男が生まれた時に、一目ぼれして「どんどこももんちゃん」を購入しました! それ以来、シリーズを少しずつですが、そろえています。最近になり、ようやく絵本に興味を持ってくれ、今では寝る前に家にある「ももんちゃん」シリーズを、「読んで」と全部もってきています。ももんちゃんを見て、「なでなで」してあげられるようになり、とても嬉しく思っています。これからも徐々にですが、そろえていきたいと思っています。

(青森県 M・Y 三二歳)



イラスト / 田島征彦

2018年12月15日発行 (毎月刊)

母のひろば 第655号
定価50円 (年600円 / 送料とも)

発行所: 童心の会
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
株式会社童心社内
電話: 03 (5976) 4187
03 (5976) 4402 (編集)
編集発行人: 大熊悟
童心社のホームページ:
<https://www.doshinsha.co.jp/>
デザイン: 谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌(無料)と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円(送料とも)。



あとがき

●今年「いわさきちひろ生誕100年」ということで、改めていわさきちひろさんの作品を拝見する機会が多くなっています。同時に童心社創業の頃のエピソードを聞くことも増え、大変面白いのですが考えさせられるかもしれません。志を同じくする著者と編集者が語り合いケンカし、結果として素晴らしい作品が生まれる……そうあらねば、と思います。◎

●寒さも日の短さも苦手な私にとって、冬至を越えることは、長い冬を切り抜けるうえでの大きな希望です。新旧暦のずれはあれど、まさに一陽来復、冬至が来ないうちは新年もやって来ないのです。日の伸び足の遅さにじらされても、あとは陽に転じるのみ。少しでも清々しく太陽を迎えたいものです。みなさまも、どうぞよいお年をお迎え下さい。▲